

客引き 悪質化

盛岡市の大通商店街で居酒屋などの悪質な客引きが問題になっている。新型コロナウイルス禍の収束で人出が増える中、しつこい声がけや入店後の会計上乘せといった行為が後を絶たず、地元飲食店主たちは頭を抱える。盛岡大通商店街協同組合（上田裕樹理事長）は「怖い思いをした客は戻ってこない」とし、客引き自体を規制する市条例の制定を訴える。

盛岡・大通

「次はお決まりですか？」。新年会シーズンを迎えた7日夜、大通商店街にはメニュー表を小脇に抱え、人々に声をかける若者たちの姿があった。通りを何度も往復し、断られても諦めない人もいた。客引き男性の一人は「評判が悪

誘拐しつこい

せ乗上金を代

盛岡大通商店街協同組合に寄せられた客引きによる迷惑行為

- しつこくつきまとわれた
- 入店後に会計を上乘せされた
- 断ると逆上された
- 店に入ろうとする客を奪われた
- 車道にはみ出して危ない

規制条例訴える声

「これは知っている」とし、出勤前後には仲間を募ってごみ拾いに励むという。雇われた店の前で客引きをしていた30代男性は「店の前に来た人以外に声をかけないのことは暗黙のルール。最近増えた客引きは仲間を募ってごみ拾いにはきき節操がない」と状況の変化を語る。

県の迷惑防止条例は客引きで服をつかんだり、つきまともったりする行為を禁じている。ただ、客引き自体は禁止しておらず、迷惑行為は横行する。組合には「営業している店の前で客を奪われた」「ついで行ったら会計を上乘せされた」などの声が寄せられ、県条例で対策し切れていない現状が浮かぶ。前橋市や仙台市は客引き行為自体を条例で禁止し、罰則もある。組合は岩手国体が開かれた2016年にも条例制定を市に提案し、しい街をつくりたい」と話す。

放送での呼びかけや看板設置などの自助努力を重ねてきた。盛岡が米紙ニューヨーク・タイムズで紹介された効果を持続するためにも環境改善は欠かせず、組合は同程度の条例制定を求める。盛岡東署は24年11月中旬から1カ月間、実態把握のため計9回の見回りを実施。署によると目抜き通りで客引きとみられる行為は136件あり、およそ半数が居酒屋だった。同行した市くらしの安全課の吉田誠量課長は「思ったより怖いと感じる人はいると思う」と危機感を募らせる。組合は条例制定の実現に向けて飲食店や来店客から署名を集めており、2月ごろに内館茂市長に提出する予定だ。上田理事長(52)は「観光客や若い人が嫌な思いをしたらそれまで。真面目にやっている店を守るため、安全で歩いて楽しい街をつくりたい」と話す。